

京都府文化行政事例紹介



平成30年10月26日
京都府文化スポーツ部文化芸術課
森木 隆浩

京都府について



面積： 4,613.21平方キロメートル
(国土の1.2%、全国31番目)

人口：約259.9万人 (全国13番目)
(※2017年10月時点)

うち、京都市が下記を占める
141.6万人 (全体の約54%)

構成市町村数：26

観光入込客数：約8,741万人
観光消費額：約1兆1,446億円

うち、京都市が下記を占める
入込客数：約5,522万人 (全体の約63%)
消費額：約1兆861億円 (全体の約95%)

<H28京都府統計書>

京都府について

「もう一つの京都」プロジェクト

古都京都とはひと味違う府内各エリアにスポットを当て、観光誘客と地域活性化を推進



海の京都



森の京都



竹の里・乙訓



お茶の京都

京都府の文化行政について

平成17年 京都府文化力による京都活性化推進条例 制定

府内の優れた文化の力を「文化力」と位置付け、
全国に先駆けて観光を中心とした地域の活性化に活用

平成29年6月 「文化芸術基本法」の改正・施行



条例制定以降の文化政策を取り巻く社会情勢の変化と、法改正等による国文化行政の対象拡大、保存・継承から活用への転換へ一早く対応すべく、

平成30年7月 「京都府文化力による未来づくり条例」制定



現在、条例に基づいた基本計画を策定中

「京都府文化力による未来づくり条例」

【7つの基本的な施策】

①文化活動を担う人づくり

⑤文化資源を活用した経済の活性化

②文化の保存・継承

⑥多様な京都の文化の発信

③新たな文化の創造

⑦文化活動を支える基盤づくり

④文化資源を生かした地域づくり

文化資源を活用した経済の活性化



ARTISTS' FAIR KYOTO(平成30年2月24日、25日)

Photography:Saki Maebata

ARTISTS' FAIR KYOTO(平成29年度実績)

- 入場者数 3,092人
- 出品作家数 45人(内、若手作家36名)
- 出品点数 276点
- 販売成約額 14,817,280円(30名98点)※終了直後時点
- 開催日程 平成30年2月24日(土)、25日(日)
※23日(金)特別内覧会
- 会場 京都文化博物館別館
- 既存のアートフェアと異なり、アーティストが企画し、出品者となり、運営する新たな仕組みのアートフェアを初開催。
- アドバイザリーボードに名和晃平ら、現役で活動するアーティスト12名を迎え、若手アーティストを選出。20代~30代前半の若手アーティスト36名が中心となるとともに、アドバイザーボードも応援出品。
- UBS銀行による協賛をはじめ、企業各社から企画に賛同を得る。
- 重要文化財の京都文化博物館別館を、まったく別の空間に生まれ変わらせ、美術展とアートフェアの垣根を取り払った展示のしつらえも好評。
- 全国から来場者を集め、連日、入場制限の時間帯も。
- 展示作品の販売に留まらず、ホテル等からの制作依頼や海外ギャラリーからの企画展出展依頼など、若手アーティストの活躍を拓げる様々な反響が得られた。



➤ 成果、目標達成状況

- 紹介したアーティスト 延べ112人
- 参加した企業経営者等 延べ352人
- 総数464人が「京都、芸術、アーティスト」をテーマに繋がりをもつ
- 販売合計3,347,000円(延25人の作家の作品43点)
- 企業のものづくりへの参加打診、作家への技術提供、商品取り扱いの申し出など幅広く寄せられた
- 旦那衆とアーティストのプラットフォームが形成
→ 「ARTISTS' FAIR KYOTO」の開催へ



➤ 30年度の展開

- 企業経営者とのコラボレーション開催
京都信用金庫 京信ジュニア・オーナーズ・クラブ 計34名参加
京都リサーチパーク KRP WEEK 計70名参加
- 最新の国際アートマーケットに関する情報提供
国際的アートフェアの関係者3名を招いたシンポジウムの開催(30年12月開催予定)



文化資源を生かした地域づくり

京都 Re:Search

新たな風土の発見（地域の文化の土壌を豊かなものに）
をテーマに、市民と芸術家が交流する機会を創出することを目的とした
アーティスト・イン・レジデンス事業

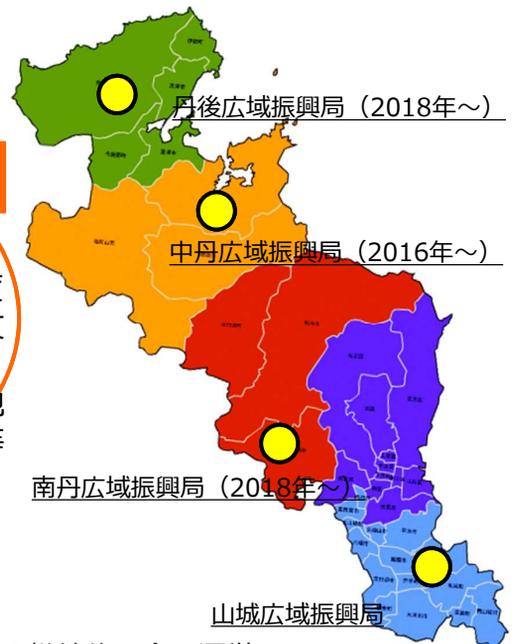
- ① 芸術家ならではの視点と地域住民との交流により、地域の魅力や文化資源を開拓し、多様な地域文化を反映した文化芸術を創造することで、住民のシビックプライド（地域の誇り）の醸成と地域の活性化を促す。
- ② 国内外で活躍する優れた芸術家の招へいと将来が嘱望される若手芸術家の公募による継続的・発展的な事業により、繰り返し訪れる芸術愛好家や観光客を獲得しながら、国内外あるいは府内の市町村間の交流人口の拡大を目指す。
- ③ 文化芸術の地域資源や環境整備が京都市内の一極に集中する傾向のある府内において、中長期的に地域間の格差を縮小するべく、府全体での文化芸術の振興や普及の担い手となる各地域の人材の発掘・育成や、情報やノウハウを共有する環境整備を推進する。

地域文化活動の推進体制づくりと 活動への支援として

地域アートマネージャーを配置

2016年度より中丹広域振興局に配置、2018年度には丹後・南丹広域振興局に配置を拡充し地域文化活動の推進体制を強化。

地域アートマネージャーの指導・協力のもと、地域の団体が取り組む親子参加型の地域文化活動等に対する支援を実施



アートマネージャーが担う役割

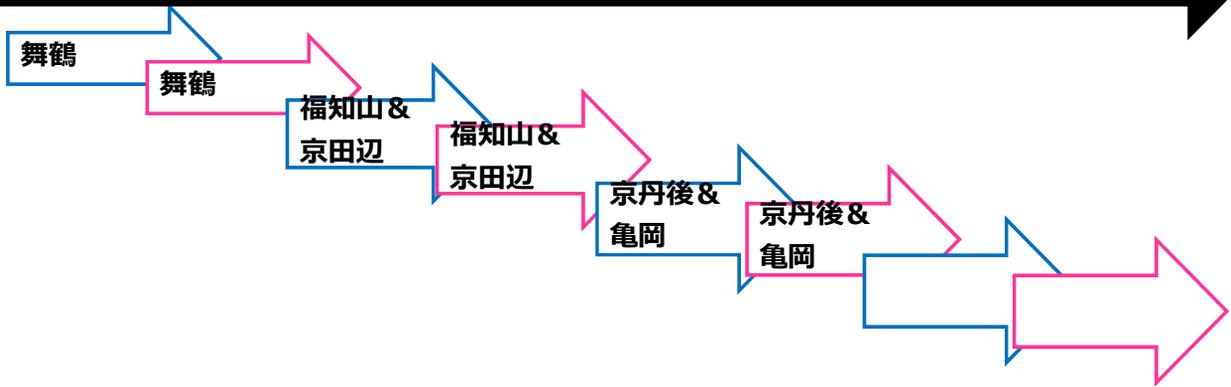
- (1) 地域住民がアートを身近に感じる地域プログラムの継続的な企画運営
- (2) 地域住民・市町村が実施する文化芸術企画に関する相談対応
- (3) 地域住民とのネットワークづくり
- (4) アーティスト・イン・レジデンスプログラムの運営全般
- (5) 広域振興局が実施する文化芸術に関する日常業務における助言

京都府内外で活動するアーティストはもちろん、工芸家、デザイナー、建築家など、クリエイティブな分野で活動している人が府内市町村に短期滞在しながら、各自が設定したテーマに沿って、地域の風土や歴史等を調査し、そこでの発見を活かしたアートプロジェクトや作品プランの構想を作成し次年度の実現を目指します。

京都府内各地で行われたリサーチをもとに、地域の新しいアートドキュメント（＝記録）作品を制作・発表します。約2ヶ月間におよぶ滞在制作と、そのプロセスを実施市町村内の各所で公開し発表、広く住民が文化芸術に触れる機会を創出し、住民の新たな文化芸術創造につなげる拠点を構築します。

「京都:Re-Search」と「大京都」によって作成されたアートの視点による新たなアートドキュメント（＝記録）をデジタルアーカイブ化し、公開することで、自由にアクセスし、地域の文化芸術活動への活用や愛着を持たせる継続的な活動するとともに、世界に対しても再発見された魅力、新たな作品・記録を公開し文化発信拠点として広めていきます。

2016年 2017年 2018年 2019年～



「京都 : Re-Search 2018 in 京丹後&亀岡」



今年度は、京丹後市と亀岡市において、短期アーティスト・イン・レジデンス事業「京都 : Re-Search 2018 in 京丹後&亀岡」を実施。京丹後市では8月下旬、亀岡市では2月下旬の14日間にわたり各市に滞在。講師には、国際的に活躍しているアーティストやキュレーターたちを迎え、リサーチの手法を学ぶワークショップやフィールドワーク、参加者が行うリサーチへのアドバイスを実施。



「大京都 2018 in 京田辺&福知山」



昨年度の「京都:Re-Search 2017 in 京田辺&福知山」参加アーティストより2~3名を選抜。また、京田辺にはゲスト講師として招いた島袋道浩氏（美術家）、福知山には藤浩志氏（美術家）ゲストアーティストとして招き、「京都Re-Search 2017 in京田辺&福知山」のリサーチ結果を元に展開します。



「京都：Re-Searchフォーラム」



2016年度

「ひとと地域とアーティスト ～アーティスト・イン・レジデンスの位置づけ～」

開催日：平成28年12月4日（日）

地域でレジデンス事業があること（アーティストがいることのよさ）の意義とアートを地域活性化に結びつける環境整備やコーディネートなど方法論、そして地域の側としての活用等の事例紹介等を国内の有識者・専門家・制作者をパネリストに迎え、日本の現状及び現代におけるアーティスト・イン・レジデンスの有益な活用について議論。



2017年度

「地域」に「向き合う、地域」と「向き合う

～アーティスト・イン・レジデンスから、未来に向けた対話～」

開催日：平成29年12月10日（日）

今年度は、アートと社会（地域）の関係について、「京都:Re-Search」と東日本大震災後、福島県立博物館が中心となって行っているアートプロジェクト「はま・なか・あいづ文化連携プロジェクト」の共同開催により、それぞれの活動を通じたアートが社会に与える可能性について議論を深めます。